

ストーリー紹介ページ

忍者キャンプ式幕 ～落日の日向～

立ちあがりし
忍者の血をひく者

立ち向かうは
強大な闇

2014 fall
11/22(土)～24(月・祝)

※この物語はフィクションです

【プロローグ】

ここは、忍者の隠れ里「日向（ひゅうが）の里」。
昔は「忍者」がたくさんいたのだけれど、今はめっきりいなくなってしまった。
そのせいか、今の里はすっかり元気がなくなってしまったんじゃないよ。

ん？

どうやら君は「忍者」の血をひいているらしいじゃないか！
忍法を知っている里のおじさんを紹介するから、ちょっと修行でもして忍者になってもらえないだろうか？

なあ～に、忍者の血をひいている君なら楽勝だよ！

「里に元気を！」 よろしく頼んだよ！

【日向の里 長老代理補佐 又八 より】



【壱】

日向の里の、長老代理補佐「又八さん」は上機嫌だった。

「今日はよく集まってくれた！これでこの里も元気になるってもんじゃよ！」

「さっそく、“里の記憶喪失で、しゃべることが出来ないけれど、忍術の使えるおじさん（師匠）”を紹介するから、修行をして一人前の忍者になっておくれ！こんなに集まってくれてよかったよかった！わはは！」

なんだか、又八さんの一方的な話で、修行を積むことになった「忍者の血をひく子どもたち」。
さて、どんな修行が待っている？



【 弐 】

1日目の修行が終わる。

「みんな、ごくろうごくろう！」やっぱり又八さんは上機嫌だ。

師匠にそれぞれの修行の成果の報告をしようと、各修行の「修了の証」をよく見てみると…

「ん？ なんだか、忍術っぽい“言葉”が出てきたぞ！？」「おぼろぎくら??」

試しにみんなで唱えてみると…



1日一緒に活動してきた、村人のササタローが急に苦しみだした！！

あわてる又八さんに、師匠は「もう1回」とのジェスチャー。

もう1回唱えると、さらに苦しみだしてしまった！それでも師匠は「もう1回」！

さらに、もう1回唱えると… ササタローは倒れてしまった。

ササタローは、しばらくして置きあがると、又八さんを見てなにかを叫ぼうとしたが…

又八さんがあわてて口をおさえて耳元でなにか言ってる??



そして、

「私は、元日向忍者学校教諭、風のサッサ！」

「どうやら記憶を失っていたようだ… これは、誰かに“記憶喪失の術”をかけられていたに違いない！ 里の中には私と同じように術をかけられた忍者がいるかもしれない！」

なんと、ササタローは忍者だった！

又八さんは喜ぶと共に、明日は修行と「術をかけられているかもしれない村人」をさがそう！と、またまた一方的に話を進めてしまった。



【 参 】

2日目。



バレないように尾行だ！



修行の難易度も上がったぞ！



【 四 】

夜。尾行で得た情報をみんなで確認だ！

彼らは忍者?? 3人を連れて来てもらって、昨日の忍術をみんなで唱える！

苦しみだす3人! さらにもう1回!

倒れた3人… そして…

「私は、元日向忍者学校教諭、瞬速のイスケ」

「同じく、月花のオサヤ」

「同じく、宵のハルカ」

やはり3人は忍者だった！

そして、又八さんが突然話し出す。

「みんな、だましていてすまない。私は、元日向忍者学校教頭、安芸百八」

おどろく子どもたちをよそに、教頭先生は語り出す。

「実は、10年前、突然、忍者たちの記憶がなくなった。そして、私は、記憶はあったものの忍術が使えなくなっていた。私は一人、この10年間、なんとか忍者たちに向けられた呪いの術を解こうと頑張ったんだが… 一人の力ではなんともならなかった。」

「忍者の血をひく君たちの力が必要だった。そこで、このように集まってもらった訳だ。」

「みんな、だましてすまなかった。そして、ありがとう。 私たちはこの呪いの術をかけた悪者と戦わなければならない！ここから先は子どものみannaには危険すぎる。ここでさらばじゃ！」

去ろうとする教頭先生に、風のサッサが叫ぶ。

「教頭！ この子たちはもう立派な忍者です！私はこの子たちに助けられた。私は最後までこの子たち、いや、この仲間たちと戦いたい！」

困り顔の教頭先生に、イスケも続く。

「私も同じ気持ちです！ 教頭！皆で戦いましょう！」

教頭先生は困っていた。しかし、うれしかった。

「そうじゃな。最後まで一緒に戦うか…」



【五】

翌日に備えて作戦会議を行おうとしていた時、師匠がやってきた。

「師匠、今までだましていてすいませんでした。」

教頭先生は深く頭を下げた。師匠は、ただ、うなずいてくれた。

と、その時！「パン！パン！」

突然、外から攻撃の音が！同時に一人の男が飛び込んできた！

「父さんやバイ！追われてる！ここがバレた！」

飛び込んできたのは、教頭先生の息子で、偵察に出ていた「陣風のコウ」だった。

大変だ！教頭先生も大慌て！どこから敵が来る！？

『ごによごによ…』

ん？師匠？？ なんかしゃべってる？？

『蒼天！やまざくら！ はっ！！』

「ドドーーーーン！」外から爆音が！？

「ギャー」さらに、何者かの声が聞こえ、走り去っていった。

突然のことに、教頭先生を含め全員が目が点になっていた。

「師匠?? 今、しゃべりました?? と言うか、術、使いました??」

しかし、師匠は、いつもの記憶喪失のおじさんに戻っていた。

「どうゆうことだ… ところで、コウ! どうした!」

「コレを雲の国の頭から渡されました」と、コウは巻物を教頭先生に渡した。



【 六 】

日向の里 安芸百八殿

急ぎの為、乱文失礼する。私は雲渡の国、風渡の里忍頭、空野雲海と申す。

先に結論を言うと、間久間が我が里、風渡と貴里・日向を狙っている。

話は少し昔の話になるが、十年前、我が里の幻術が得意な一族「八雲」の一人娘「ひかり」が間久間によってさらわれた。

間久間は「ひかり」に幻術をムリヤリ使わせ、日向や風渡の忍者たちの記憶を奪ったのだ。

十年がたち、いよいよ日向や風渡の力が弱まったとして、間久間が攻めてくるとの情報がいった。

ただ、日向の「忍者の血をひく子ども」を、集めている情報は、色んなところに伝わってしまっているので、おそらく、日向から先に狙われるであろう。

もうすぐ、間久間が「忍者の血をひく子ども」の記憶を奪う為に、「ひかり」を連れてやってくるであろう。

その時がチャンスだ！頼む。ひかりを助け出してくれ！

【雲渡の国 風渡の里忍頭 空野 雲海】



「こんなに危ない状況にまで、なっていたとは…」

明日は、戦いに備えるぞ！ 必ず「ヒカリ」を助け出せ！

【七】

翌日、日向の里では、
敵の襲来に向け、戦いの準備が急ピッチですすめられていた。



【八】

敵の気配に気をつけながら、里に入ってきている敵をさがすぞ！



いたっ！ 連れてくるのは… 「ヒカリ」??

刀を構えようとした瞬間、敵が術を使う。
「うわー！」 教頭先生とイスケが吹き飛ばされる。

こうなったら、最後の奥義だ！みんないくぞ！



敵がひるんだ！今だ！！



【 九 】

無事、ヒカリは助け出され、敵の忍者も追い返した。

ヒカリもご飯を食べて元気になったようで、みんなの前に姿を現した。

「いや～よかったよかった！ ヒカリさんも無事でなによりじゃ！ ところで、ヒカリさん。師匠の記憶をもどしてほしいんですが…」

『もちろんです！ えいっ！』

「…?? すいません。いつもどうりなんですが…」

『おかしいですね。えいっ！えいっ！！… あの…、少し言いづらいんですが…』

「はい？」

『この方に術はかかっていません。ただ、ポケテらっしゃるだけのようです。』



なんと、師匠は記憶喪失でもなんでもなかった！

なんともまぎらわしい…



【 十 】



問題も無事解決して「忍者の血をひく子どもたち」が家路につこうした時…

『大変だ！大変だ！』

またしても、コウが走り込んできた！

『父さん！ 雲の国が！ 雲の国が敵に攻撃されている！！』

「なに～！ わしらは雲の国の情報に助けられたばかりじゃぞ！ しかも、雲の国はヒカリのふるさとじゃ！」

『とても危ない状況のようです！』

「雲の国とは昔から仲がいいんじゃ！ 今度は我らが雲を助ける番じゃ！」

「いくぞ！ 雲の国を助けに！！」

忍者キャンプ武幕～落日の日向～**完結**

「忍者キャンプ参幕～雲の谷の物語～」へ、つづく…

